

横浜市における自殺の現状（概要）

－平成 20 年人口動態統計を用いた解析－

1 自殺者数、自殺死亡率の推移（図）

- 平成 20 年は、全国の自殺者数は 30,299 人で、横浜市の自殺者数は 764 人でした。また、自殺死亡率（人口 10 万対）は、全国は 24.0 で横浜市は 21.0 でした。
- 全国では、自殺者数、自殺死亡率ともに平成 19 年より減少していますが、横浜市では平成 18 年から 3 年連続で増加しています。

2 性別自殺者数

- 平成 20 年の性別自殺者数は、男性 512 人（67.0%）女性 252 人（33.0%）でした。
- 男性の自殺者は女性に比べて多く、近年は、全体の 7 割近い値で推移しています。

3 性・年齢階級別自殺者数

男性

〔自殺者数〕

- 近年、45～54 歳と 55～64 歳が他の年齢階級に比べ、高い値で推移しています。
- 平成 20 年は、35～44 歳の自殺者数が増加し、106 人になりました。

〔自殺死亡率〕

- 平成 9 年以降、55～64 歳が高い値を示しています。
- 平成 20 年は、45～54 歳(45.7)が最も高く、次いで 55～64 歳（42.7）、35～44 歳(34.1)の順に高くなっています。

35～44 歳の自殺者数の増加は、この階級の人口が増加していることも影響していると考えられますが、自殺者数、自殺死亡率ともに近年、上昇傾向にあることから、今後も動向を確認していく必要がありそうです。

女性

自殺者数、自殺死亡率ともに、近年は、年齢階級による大きな差異は確認されていません。

4 区別の自殺者数（表 1）、自殺死亡率（表 2）

- 自殺者数について平成 18 年から 20 年の平均をみると、港北区、南区、鶴見区、中区の順に多くみられました。
- 自殺死亡率の平均は、中区、南区、栄区、瀬谷区の順に高くみられました。
- 平成 18 年からの 3 年間のデータのみでは、一時的な自殺者数の増加とも考えられるため、区ごとの傾向を把握することは困難です。区別の自殺者数の傾向については、今後の検討が必要です。

